

2027年3月期 第1四半期 決算説明会

東海旅客鉄道株式会社

2026年7月31日

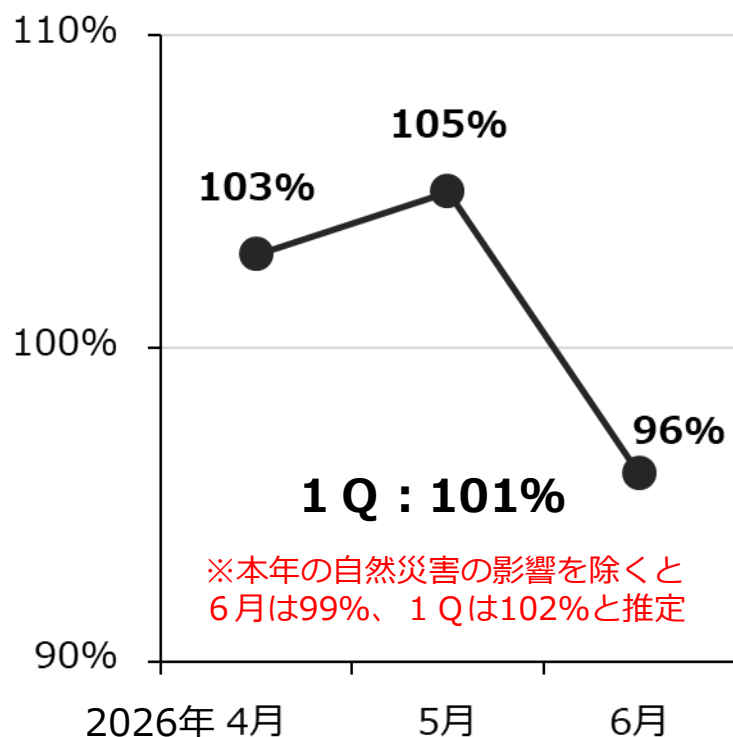
目 次

I	2027年3月期第1四半期 決算実績等	… 3
II	東海道新幹線のさらなる進化	… 9
III	中央新幹線計画の状況	…11

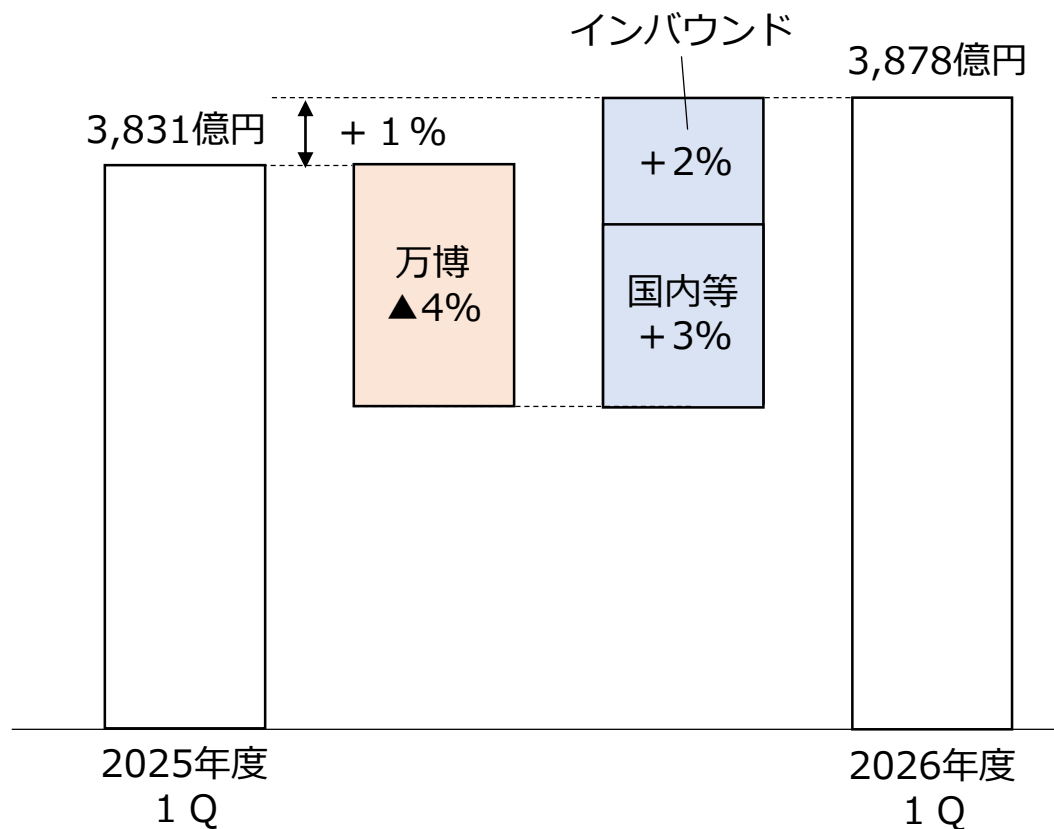
I 2027年3月期第1四半期 決算実績等

東海道新幹線のご利用状況と運輸収入

■ 東海道新幹線のご利用状況 (東京口断面輸送量、2025年度比)



■ 運輸収入（幹・在）の比較



- ビジネス、国内観光、インバウンド等の需要増により、輸送量・運輸収入ともに万博が開催された昨年を上回る実績で堅調に推移
- 弾力的な列車設定により需要を確実に取り込むとともに、需要の創出に向けた諸施策を推進

○ 第1四半期も引き続き、需要の創出に向けた諸施策を推進



「涼宮ハルヒの憂鬱×JR東海
アニメ20周年記念キャンペーン」



「超特急×JR東海 コラボレーション企画第2弾」



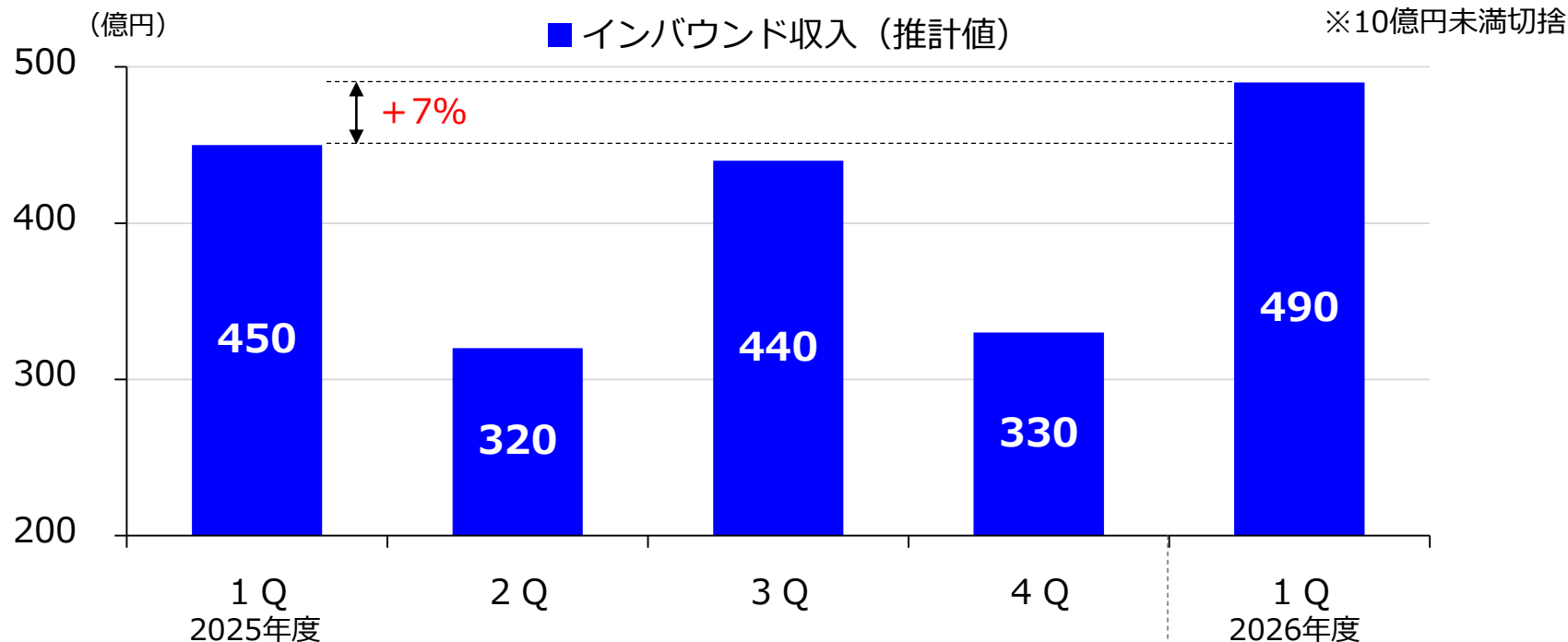
「東海道を旅する推し松さんリターンズ！」



「エスパルス新幹線#しみず432号」

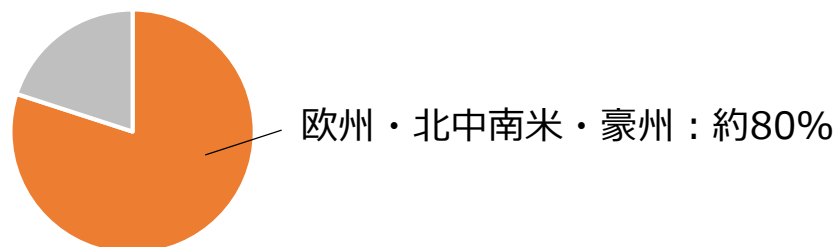
インバウンドの状況

○ 1 Q インバウンド収入（推計値）は約490億円



○ 新幹線のご利用が多い地域からの訪日外客数は引き続き増加傾向

◆ インバウンド地域別比率



(新幹線車内アンケートに基づくイメージ)

◆ 2026年訪日外客数（1～6月累計）

- ・ 総数は2025年比▲2.0%
- ・ 欧米豪からの訪日外客数は増加

英国	+5.7%
フランス	+8.4%
ドイツ	+7.5%

米国	+7.1%
メキシコ	+29.2%
豪州	+4.6%

出典：日本政府観光局(JNTO)

比較第1四半期損益計算書【連結】

7

(単位 億円、%)

	2025年度	2026年度	増減	前期比	主な増減要因
営業収益	4,782	4,927	144	103.0	
運輸業	3,962	4,011	48	101.2	運輸収入の増
流通業	411	445	33	108.2	百貨店・駅店舗の売上の増
不動産業	129	137	8	106.5	駅商業施設の賃料収入の増
その他	279	332	53	119.2	鉄道車両等製造業の売上の増
営業費	2,570	2,735	164	106.4	
営業利益	2,212	2,191	△ 20	99.1	
営業外損益	△ 136	△ 106	30	77.5	
営業外収益	70	99	29	141.2	運用利息の増
営業外費用	207	206	△ 1	99.2	
経常利益	2,075	2,085	10	100.5	
特別損益	△ 2	△ 7	△ 5	342.1	
税金等調整前四半期純利益	2,073	2,078	5	100.2	
法人税等	610	634	24	103.9	防衛特別法人税の適用開始による増
四半期純利益	1,462	1,443	△ 18	98.7	
非支配株主に帰属する 四半期純利益	10	17	6	162.4	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,452	1,426	△ 25	98.2	

(注) 営業収益の内訳は、セグメント別の外部顧客への売上高

比較第 1 四半期損益計算書【単体】

(単位 億円、%)

	2025年度	2026年度	増減	前期比	主な増減要因
営業収益	4,015	4,066	50	101.3	
うち運輸収入	3,831	3,878	46	101.2	新幹線+42、在来線+3
営業費	1,902	2,002	100	105.3	
人件費	470	494	24	105.1	ベースアップによる増
物件費	864	945	81	109.4	
動力費	143	151	7	105.3	
修繕費	254	295	40	116.1	労務単価の上昇による増
業務費	465	497	32	107.0	システム関連経費の増
租税公課	113	115	1	101.7	
減価償却費	455	448	△ 6	98.5	
営業利益	2,113	2,063	△ 50	97.6	
営業外損益	△ 144	△ 115	28	80.0	
営業外収益	68	99	30	144.4	運用利息の増
営業外費用	213	214	1	100.7	
経常利益	1,968	1,947	△ 21	98.9	
特別損益	2	△ 4	△ 6	—	
税引前四半期純利益	1,971	1,943	△ 27	98.6	
法人税等	580	593	12	102.2	防衛特別法人税の適用開始による増
四半期純利益	1,390	1,350	△ 40	97.1	

Ⅱ 東海道新幹線のさらなる進化

- 成長戦略の中心である東海道新幹線の収益力をさらに高めていく
- 足元で進んでいるインフレに向き合い、多様なニーズに対応できるさらなるサービス向上、サービスに見合った価格の設定、需要創出策等の検討を進めていく

東海道新幹線のさらなる進化	実施時期
一部時間帯で「のぞみ」を1時間に最大13本運転するダイヤに改正	2026年3月
Supreme Class Cabin(個室タイプ)の導入	2026年10月
Supreme Class Seat(半個室タイプ)の導入	2027年度中
グリーン車のサービス向上	2027年度中



Supreme Class Cabin (7号車)



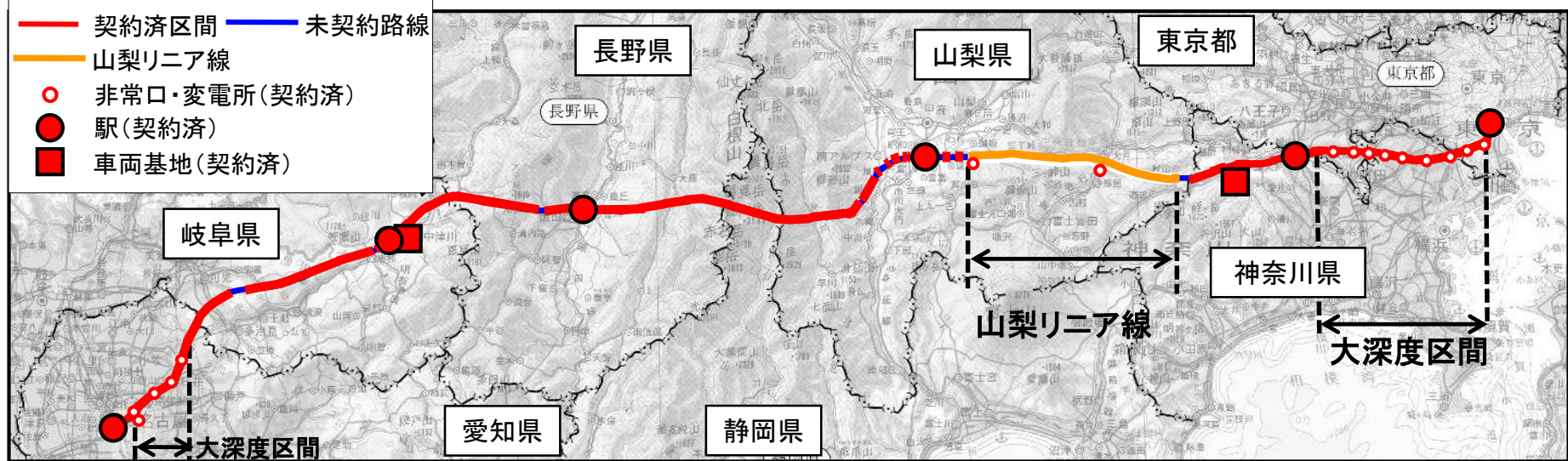
Supreme Class Seat

Ⅲ 中央新幹線計画の状況

【本体工事契約箇所（2026.6.30現在）】

※本体工事契約区間等は概ねの位置を示したものです。

※この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の100万分の1日本を複製したものです。（承認番号 平25情複、第310号）



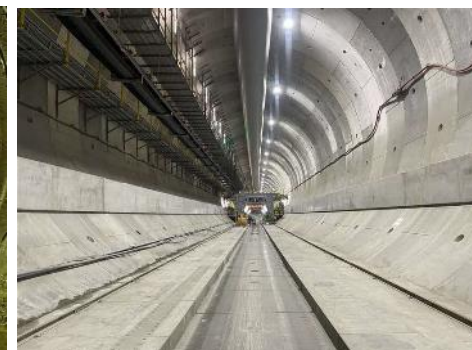
名古屋駅（西工区）
全景



第二木曽川橋りょう
ケーソン工



南アルプストンネル
(山梨工区)
本坑・品川方貫通



第一首都圏トンネル
(梶ヶ谷工区)
本格的な掘進

【南アルプストンネル 静岡工区】

《大井川の水資源及び南アルプスの生態系等の環境保全に関する取組み》

- 5月31日に、大井川流域8市2町首長との意見交換会を開催し、工事着手前の調査の結果等を記載した事後調査報告書や、山梨・静岡県境付近における調査の状況についてご説明の上、意見交換を行いました。
- 5月から6月にかけて、大井川流域8市2町および静岡市において、当社の取組みに関する地域の皆様のご理解を深めていただくための説明会を計22回開催しました。
- 7月1日に、鈴木静岡県知事と社長が面会し、地域の皆様への説明会の状況等についてご報告しました。

《本体工事の着手に向けた法令手続き》

- 7月18日に、静岡県と、本体工事に必要となる自然環境保全協定を締結しました。



地域の皆様のご理解を
深めていただくための説明会



鈴木静岡県知事と社長との面会



自然環境保全協定締結式

本資料に記載されている将来の計画や見込み数値等は、当社が現在入手可能な情報に基づく見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。潜在的なリスクや不確実性の例としては、経済動向や事業環境、消費動向、当社および子会社における他社との競合状況、法律や規制等の変更等が挙げられます。

(参考) 2027年3月期第1四半期セグメント情報

(単位 億円、%)

	2025年度	2026年度	増減	前期比
営業収益	4,782	4,927	144	103.0
運輸業	3,992	4,043	50	101.3
流通業	433	470	37	108.6
不動産業	238	224	△ 14	94.1
その他	577	606	29	105.1
調整額	△ 458	△ 417	41	91.0
セグメント利益 (営業利益)	2,212	2,191	△ 20	99.1
運輸業	2,093	2,043	△ 49	97.6
流通業	32	42	10	133.8
不動産業	69	71	2	103.4
その他	23	36	13	157.1
調整額	△ 5	△ 3	2	58.5

(注) 1. セグメント別の営業収益は、外部顧客への売上高のほか、他セグメントへの売上高を含む

2. 「調整額」欄は、セグメント間取引の相殺消去

(参考) 主な子会社の実績 (連結修正前)

○実績

(億円)

	営業収益			営業利益			経常利益		
	2025年度 1Q実績	2026年度 1Q実績	前期比	2025年度 1Q実績	2026年度 1Q実績	前期比	2025年度 1Q実績	2026年度 1Q実績	前期比
JR東海高島屋	149	167	112.0%	14	24	169.3%	15	26	168.0%
JRセントラルビル	82	83	102.0%	10	12	113.6%	10	12	116.3%
JR東海ホテルズ	73	73	99.0%	7	3	47.3%	7	3	48.6%
日本車両	229	232	101.3%	14	28	193.3%	18	32	175.1%
				日本車両	四半期純利益		14	27	191.6%

(参考) 輸送量の推移 (月次利用状況・多客期利用状況)

◆月次利用状況 Monthly passenger volume

(%)

期間 Period	新幹線 Shinkansen							在来線 Conventional Railway	
	東京口 Tokyo Gate						大阪口 Osaka Gate	特急等 Express	名古屋近郊 Nagoya Area
	合計 Total	のぞみ Nozomi	ひかり Hikari	こだま Kodama	平日 Weekdays	土休日 Weekends	合計 Total		
26/04	103	103	102	105	103	104	101	99	102
26/05	105	105	102	105	103	104	102	106	101
26/06	96	95	96	100	98	94	92	96	102
26/04-06	101	101	100	104	101	102	99	101	102

◆多客期利用状況 (東京口) Passenger volume during the peak holiday seasons (Tokyo Gate)

・ゴールデンウィーク “Golden Week” Holidays

期間 Period	新幹線 Shinkansen				在来線 Conventional Railway	
	合計 Total	のぞみ Nozomi	ひかり Hikari	こだま Kodama	特急等 Express	名古屋近郊 Nagoya Area
4/24～5/6	104	105	100	105	98	106

(※) 新幹線・在来線特急等は特定の駅間における月累計断面輸送量の対前年比。

在来線名古屋近郊は自動改札集計による乗車人員合計の対前年比。※多客期においては定期外の乗車人員に限る。

Note: The data of the Shinkansen and Express is based on the total passenger volume of each month at certain points.

The data of the Nagoya area is based on the passenger ridership of each month counted by automatic ticket gates.

※The data of the Nagoya area regarding the peak holiday seasons is based on the passenger ridership excluding commuter passes.

(参考) 月次営業概況（商業施設・ホテル）

◆商業施設

Commercial Facilities

	ジェイアール名古屋タカシマヤ、及び タカシマヤ ゲートタワーモール JR Nagoya Takashimaya and Takashimaya Gate Tower Mall	
期間 Period	売上高合計 2027年2月期 (百万円) Total Sales FY2026: 2026.3~2027.2 (Millions of Yen)	前年同月比 (%) YoY Comparison
26/03	21,021	106.8
26/04	17,712	106.1
26/05	19,669	118.0
26/06	18,697	109.5

◆ホテル

Hotels

	名古屋マリOTTアソシアホテル Nagoya Marriott Associa Hotel		名古屋JRゲートタワーホテル Nagoya JR Gate Tower Hotel	
期間 Period	稼働率 (%) Occupancy Rate	前年同月比 増減 YoY Inc./Dec.	稼働率 (%) Occupancy Rate	前年同月比 増減 YoY Inc./Dec.
26/04	79.8	-0.9	83.0	-1.7
26/05	80.1	4.3	84.2	0.9
26/06	79.3	5.2	82.8	-1.9

(※) 各月の数値は速報値のため、確定値とは異なる場合がある。

Note: The number for each month comes from a quick estimation, which might differ from the actual results.